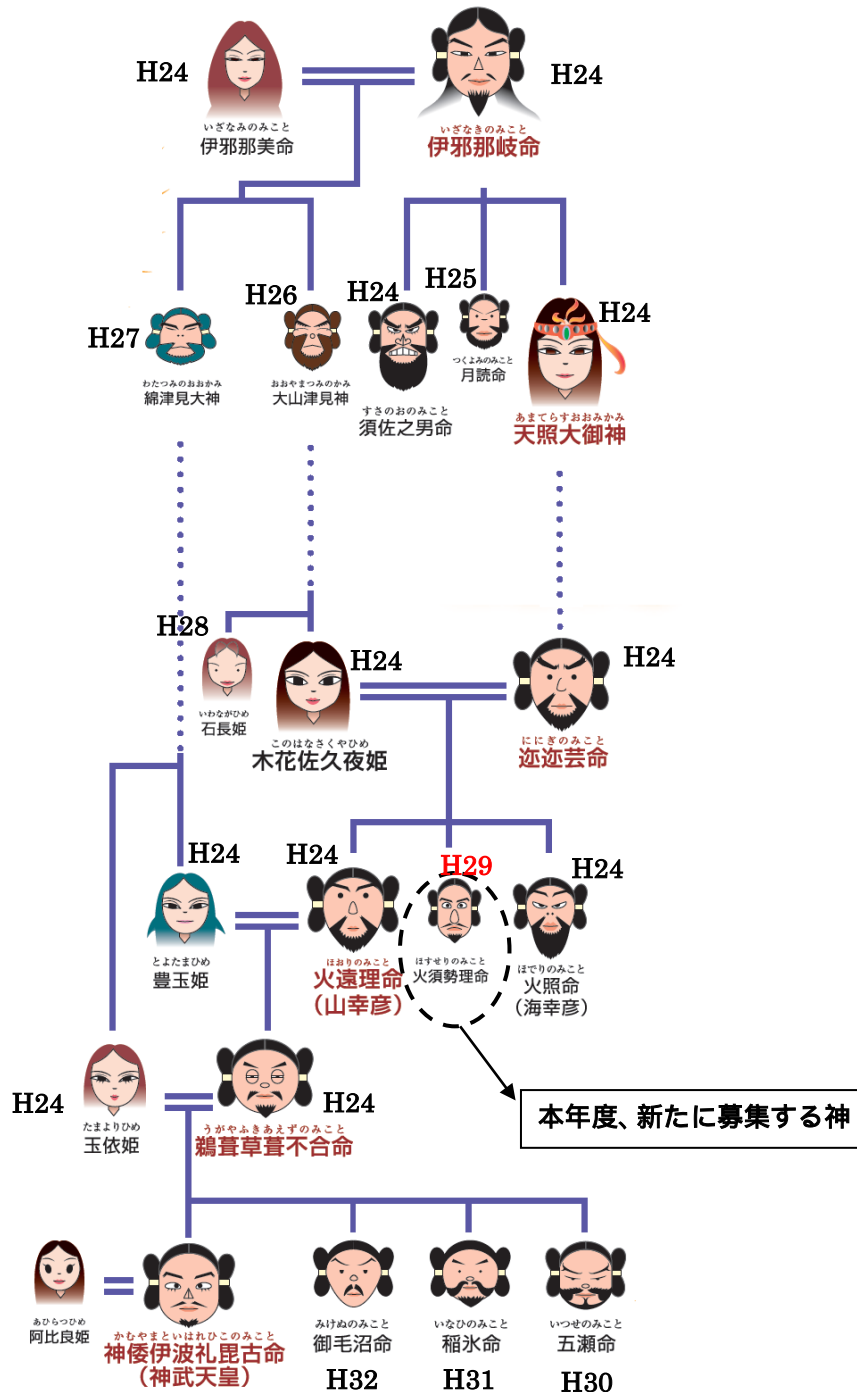


記紀編さん 1300 年記念
平成 29 年度 宮崎神宮大祭神賑行列「神々のパレード」

神々の紹介

神々の系図・パレード登場年度





イザナキノミコト【H24 年度】

妻・イザナミノミコトとともに、古事記に登場する神々のみならず、国土をも産んだ「はじまりの神」。阿波岐原森林公園 市民の森の中にある「みそぎ池」で初めてみそぎを行った際、アマテラスオオミカミ等の神々が産まれたとされる話は有名です。



イザナミノミコト【H24 年度】

夫・イザナキノミコトとともに、古事記に登場する神々のみならず、国土をも産んだ「はじまりの神」。火の神カグツチを産んだ際に火傷を負って亡くなり、これを嘆いたイザナキノミコトは、イザナミを追って黄泉（よみ）の国まで行き、夫に愛された神様とされています。



アマテラスオオミカミ【H24 年度】

イザナキノミコトのみそぎで最後に生まれた「3柱の貴子（みはしらのうずのみこ）」のうちの1神。太陽の神として、神様の世界・高天ヶ原（たかまがはら）を治めていましたが、弟・スサノオノミコトの暴れっぷりに怒り、天の岩戸に引きこもり、世界は闇に閉ざされました。困った神々は岩戸の前で宴会をし、賑やかな様子を不思議に思ったアマテラスがのぞき込んだ時に引き出して、この世に光が戻ったと言われています。



スサノオノミコト【H24年度】

イザナキノミコトのみそぎで最後に生まれた「3柱の貴子(みはしらのうずのみこ)」のうちの1神。海を治める神と言われており、日向神話ではアマテラスオオミカミの「天の岩戸伝説」を作った原因とされ、暴れん坊として描かれています。一方、人々を苦しめていた「ヤマタノオロチ」を退治したとされており、出雲神話では一躍ヒーローになった神様として有名です。



ニニギノミコト【H24年度】

アマテラスオオミカミの孫にあたり、地上界を治めるように指示を受けて「高千穂のくじふる峰」に降り立たとされる神。天孫降臨の話はあまりにも有名で、地上界のマドンナであるコノハナサクヤヒメを妻にし、海幸彦・山幸彦の父となりますが、イワナガヒメを親元へ送り返したり、妻の妊娠に疑念を抱いたり、人間のような行動をした神様でもあります。



コノハナサクヤヒメ【H24年度】

木の花、つまりサクラのように美しい女性とされている神。身ごもった際に、夫であるニニギノミコトに疑念を抱かれると、身の潔白を証明するために産屋に閉じこもって火をつけ、燃え盛る炎の中で海幸彦や山幸彦などを出産したとされる大変気丈な神とされています。



ホデリノミコト（海幸彦）【H24年度】

青島などを舞台にした「海幸山幸」伝説のヒーローで、山幸彦の兄。海幸彦は海、山幸彦は山と、それぞれ領分を決めて暮らしていましたが、ある日、弟・山幸彦に請われて魚釣りの道具を貸したところ、大切な釣り針を無くされてしまいました。怒った海幸彦は、どんなに謝られても山幸彦を許しませんでしたが、最後は海の神の力を授かった山幸彦に敗れてしまうというのが、青島に伝わる海幸彦の伝説です。



ホオリノミコト（山幸彦）【H24年度】

青島などを舞台にした「海幸山幸」伝説のヒーローで、海幸彦の弟。兄・海幸彦が大切にしていた釣り針を無くして途方に暮れていたところ、シオツチノカミから海の神様の宮への道を教えてもらい、トヨタマヒメと出会いました。その後、山幸彦が海から突然帰ってきた際に、急いで服を着る間もなく、村人が裸のまま海に飛び込んで出迎えた伝説にちなみ、毎年冬に青島で「裸まいり」が行われています。



トヨタマヒメ【H24年度】

海の神であるワタツミノオオカミの娘で、山幸彦の妻。山幸彦が帰ってしまった後、後を追って海の中から亀に乗って鵜戸神宮へやって来ました。出産の際、中を見ないようにお願いした山幸彦に本来の姿を見られてしまい、生まれたばかりの子を残して海に帰っていきました。トヨタマヒメが乗ってきた亀は、姫が海に帰ったことを知らずに待ち続けて石になり、鵜戸神宮の運玉を投げ入れる亀石になったと言われています。



ウガヤフキアエズノミコト【H24年度】

山幸彦とトヨタマヒメの子であり、後に神武天皇の父となります。生まれた直後に、母であるトヨタマヒメが海に帰ってしまいましたが、鵜戸神宮の洞窟の岩からしたたり落ちる水を乳がわりにして育ったとされる話は、「お乳岩の伝説」として有名です。



タマヨリヒメ【H24年度】

トヨタマヒメの妹で、ウガヤフキアエズノミコトの妻。海に帰ってしまったトヨタマヒメの代わりにウガヤフキアエズノミコトを育てましたが、その後、妻となり、4人の子どもをもうけました。4人の子どもの末弟が、のちの神武天皇です。



ツクヨミノミコト【H25年度】

イザナキノミコトのみそぎで最後に生まれた「3柱の貴子(みはしらのうずのみこ)」のうちの1神。夜の国を治める月の神とされています。



オオヤマツミノカミ【H26年度】

国生みの神話で知られるイザナミノミコトとイザナキノミコトとの間に生まれた神で、コノハナサクヤヒメとイワナガヒメの父。山および海の両方を司る神であり、「酒造の神」とも言われています。



ワタツミノオオカミ【H27年度】

国生みの神話で知られるイザナミノミコトとイザナキノミコトとの間に生まれた神で、トヨタマヒメとタマヨリヒメの父。海の神とも言われています。山幸彦が釣り針を探しにワタツミの宮にやって来た時に、すべての魚にその行方を問い、釣り針を探し出したと言われています。



イワナガヒメ【H28年度】

妹のコノハナサクヤヒメとともに、ニニギノミコトのもとに嫁いだと言われている神。しかし、ニニギノミコトは、器量が悪いとイワナガヒメを親元に送り返し、以来、未永き幸せが込められたイワナガヒメを邪険にしたニニギノミコトの子孫たちの寿命は、木の花のようにもろくはかないものになったと言われています。



ホスセリノミコト【H29年度】

母・コノハクヤヒメの火中出産により生まれた神。火が盛んに燃え立つときに生まれたとされ、兄に海幸彦、弟に山幸彦を持つと言われています。



イツセノミコト【H30年度】

神武天皇4兄弟の長男で、神武天皇に東征を相談され同行した神。東征の途中、ナガスネヒコの攻撃を受けて負傷し、紀国で息絶えます。和歌山市・竈山神社の主祭神。



イナヒノミコト【H31年度】

神武天皇4兄弟の次男と言われる神。東征に同行するも、熊野で突然暴風に遭ったことに嘆き、剣を抜いて海に身を投じて鋤持神(さいもちのかみ)となったと言われています。



ミケヌノミコト【H32年度】

神武天皇4兄弟の三男と言われる神。イナヒと同様に暴風遭遇に嘆き、常世郷（とこよのくに）に行つたとされています。イナヒとともに、和歌山県新宮市・王子神社の主祭神。